

見ることができる。またドキュメンタリー写真集、著書として出版されておりそれらは私の所にありますので興味ある人は見に来て下さい。私自身、今までの経歴から科学技術の目を通して自然を観察、利用してきたが、このプロ

ジェクトに参加することにより芸術家の全く違った自然観を知ることができ、非常に良い体験をさせてもらいました。

ラオスの人々と図書館

電子制御工学科4年 プアリアン

皆さん、こんにちは！私はラオスから来たプアリアンと申します。今年度で4年生になります。どうぞよろしくお願いします。今回図書館だよりに原稿を書かせて頂きありがとうございました。

さて、この機会に「ラオスの人々はどのように図書館や本を利用しているのか」ということを述べたいと思います。

ラオスには、図書館あるいは図書室の数が少なく、その点では、日本と比べると全然違います。都会にある学校でも、小学校から中学校まではほとんど図書館がありません。私の場合も、図書館と言うものは高校まで知りませんでした。高校一年生の時初めて図書館に行った時、私はとても喜んでいました。私が通っていた高校には図書館が無かったのですが、学校のすぐ近くに大学があったおかげで大学の図書館を使うことが出来ました。その図書館は「Central Library」と言い、外国語辞典や文学関係の本などさまざまな本があります。特に、自然科学関係の本が多いようです。しかし、その多くの本は外国語で書かれています。一番多いのは英語で書かれているもので、その他にフランス語、タイ語、ドイツ語、そしてスペイン語で書かれている本もかなりあります。また、ラオス語で書かれている本には、「詩」「ショートストーリー」「昔話」などの文学関係の本が多いです。もともとは外国の本で、ラオス語に翻訳されている本や資料も少しあります。「Central Library」

以外で、多くのラオスの人に知られている図書館は「National Library」です。この図書館の本も多くが外国語で書かれた本です。ちなみに、ラオスでは、日本のように漫画本はないようです。あるとしても、ただの絵本のようなものです。ラオスでは、図書館はもちろん、本の数や種類も少ないです。ですから、ラオスの人々は小さい頃からあまり読書をする機会がないし、外国語が分からない人もたくさんいるので、そのような人々には、外国語で書かれた本は役に立ちません。それで、ラオス人は日本人よりあまり読書はしていません。日本に来てから驚いたことがあるのですが、電車の中でもどこでも熱心に読書をしている人がいますね。私は日本人の読書力はすごいと思います。私だったら、そんな状態で本を読んだらすぐ眠くなってしまいますから。

本と言うのはとてもよい情報源であり、本を読んだら楽しさだけではなく現在起こっている世界の様々な事がわかり立派な教育を受けることになります。私は、自分が本を読む事がまだ苦手だと思うのでこれからも、日本に居る間にもっといろんな日本の本を読みたいと思います。いつか自分も、日本人の皆さんのように読書力が強くなると嬉しいです。読書力と言うのは、小さい頃から養ってあげるべきものではないかと思ってきました。私は、日本の図書館や本屋を見てから、ラオスも日本みたいに図書館が改善され、本屋にも漫画本や雑誌や教育に必要な本がたくさん置かれたらいいなと思ってきました。そうすれば、ラオスの人も小さい頃から読書力を養うことが出来るでしょう。